

今月の特集



《インフルエンザについて》

インフルエンザとは、インフルエンザウイルスというウイルスによっておこる呼吸器感染症です。普通のかぜもウイルスによる感染症ですが、次のような症状が異なります。

	インフルエンザ	普通の風邪
主な症状	39℃異常の発熱・頭痛・喉の痛み・鼻水・くしゃみ・咳・関節痛など 全身症状が強い 。	発熱(あまり高くない)・頭痛・喉の痛み・鼻水・くしゃみ・咳・関節痛など 全身症状はあまりない 。
合併症	気管支炎・肺炎の迂遠・脳症	重症化することは非常にまれ

《インフルエンザの予防》

- 1 人ごみをさける (咳・くしゃみにより、人から人へ感染するウイルスです)
- 2 十分な栄養と休養をとる (疲れている時や睡眠不足の時には感染しやすくなります)
- 3 マスクの着用 (空気の乾燥により、のどの粘膜の防御機能が低下します。)
- 4 室内の乾燥に注意 (加湿器などを使用し、50~60%の湿度を保ちましょう)
- 5 ワクチン接種 (65歳以上の高齢者や慢性疾患のある方は、重症化しやすいのでかかりつけ医師と良く相談の上、接種しましょう)

インフルエンザのワクチンは、効果が現れるまでに2週間かかり、効果の持続は約5ヶ月間といわれています。また、13歳未満の方は2回接種となりますが、2回目は1回目から1~4週間あけて接種しますので1回目をさらに早めて接種しましょう。例年、インフルエンザの患者数は12月から増え始め1月から2月にピークとし、4月ごろには終息します。当院でも19年12月上旬からインフルエンザ感染の方が増えてきていますので十分に注意して下さい。

開院18年12月4日~19年11月30日までの実績

<手術実績>			<生理機能検査実績>		<リハビリ実績>	
整形	観血的整復固定術	14	心電図	897	運動器リハビリテーション	3706
	脊椎 OPE	1	心エコー	319	脳血管リハビリテーション	1067
	創外固定術	3	腹部エコー	595	消炎鎮痛等処置	4161
	人工骨頭置換術	1	体表エコー	230		
	人工膝関節置換術	1	眼底検査	55	<放射線実績>	
	観血的整復固定術	14	肺機能検査	44	一般撮影	4986
	脊椎 OPE	1	ホルター心電図	7	CT (一般)	1401
外科	痔核根治術	18			X線透視撮影	277
	鼠径ヘルニア根治術	7	<内視鏡実績>			
	虫垂切除術	10	上部消化管	724	<外来・入院患者>	
	大腸手術	11	下部消化管	182	外来患者数	30661
	胃切除術	5	特殊内視鏡検査	8	入院患者数	367
	腹腔鏡下胆嚢切除術	8				
	その他	2				

院長挨拶



院長 早瀬仁滋

新年明けましておめでとうございます。職員を代表してご挨拶申し上げます。年々、地球温暖化現象とともにさまざまなウイルス疾患の流行や罹患が増加し、臨床現場でもウイルスの重複感染などさまざまな疾患が蔓延している現状です。また、技術進歩、グローバル化にともない、あらゆる疾患を目にする機会が増えました。大学病院勤務時代のように専門疾患だけを診ていればいいわけではありません。限られた診療時間で診断・治療が必要とされます。日々反省と勉強の繰り返しです。そんな中、開院して早一年が過ぎ、患者様皆様には、診療待ち時間を費やし多大なご迷惑をお掛けしております。1時間、2時間も過ぎながらも暖かく見守っていただき職員一同より感謝すると共に、1分でも待ち時間が少なくなるよう努力していきたいと思っております。本年も何卒宜しくお願い申し上げます。

手術室だより

開院一年間で全身麻酔症例80例を経験できたことは、私たちスタッフ一同地域医療に貢献でき大変うれしいです。開院当初は小手術のみかと思っていましたが、癌の手術から腹腔鏡手術まであり目を疑いました。また首から足の先まで手術があり、驚きの日々の連続でした。

印象に残るのは、遠方から飛行機に乗って、当院のようなクリニックに手術に来られるのには、正直驚きました。また手術困難と言われ当院に来られ手術して退院される姿は、何ものにもかえられない喜びでした。

現在では、広いと思っていた手術室が、医療機器の増設で手狭に感じるようになりました。手術部スタッフ一同、本年も宜しくお願い申し上げます。

患者さんの声

職員に寄せられました声を元に、職員一同改善に努めてまいります。今後とも皆様のご意見をいただけたらと、思います。

・ 待ち時間情報

待ち時間がわからないため、ご迷惑をお掛けしました。受付右端に待ち患者情報の開示を平成19年10月24日より開始いたしました。診察券番号と順番を表示しております。ご参考ください。

・ テレビ

テレビが見づらいとのことのご意見が寄せられました。壁にアンカーを取り付け、1月中に移動させる予定です。テレビの位置が高くなり後部席でも見やすくなる予定です。好御期待。

・ 座席

待ち患者さまが席に座れない時間があり、大変ご迷惑をお掛けしております。ソファを増脚予定です。発注済みのため、今しばらくお待ちください。

・ 接遇

患者様に対する接遇にたいして、多忙なときでも事務的でなく笑顔をもっとに院内研修を実施。今後とも初心を忘れずに努力して参りたいと思っております。

・ 入院：入浴

入院中の患者様が安心して入浴出来るように手すり、昇降台を増設いたしました。足が不自由な患者様や術後の患者さまが安心して入浴出来るようになりました。

・ 入院：歩行器

術後の患者さまが安心して離床できるように歩行器（ウオーカー）を増設しました。



編集だより



今回開院1周年を迎え、メディカル新聞を発行することとなりました。初めての編集でしたので、なにかと読みにくい点が多々あるかと思いますが、お許し下さい。意見・ご感想などありましたら、今後の参考にさせていただきますのでお聞かせ下さい。

これからは、年に何度か新聞を発行し、患者さんに当院の取り組みをお知らせ行きたいと思っております。今後とも宜しく申し上げます。
編集 戸塚

設備

地域の医療機関として、診断・治療に貢献できるよう、最新の設備に一新していききたいと思います。

〔視力測定器〕

従来の壁式の視力測定では十分な健診とはいえず、専用測定器による視力検査を行っております。

〔眼底鏡〕

高血圧・糖尿病の治療には、眼底鏡による網膜の動脈硬化所見、糖尿病による網膜変化は診断・治療に不可欠でした。従来は、簡易型、眼科科への紹介を行ってございました。今回導入にてより高いレベルでの高血圧、糖尿病の治療を実践できるようになりました。

〔手術台〕

従来の手術台は整形外科領域・外科領域に対応しておりました。今回、複雑な整形外科の手術や内視鏡手術・腹腔鏡の手術件数の増加に伴い対応可能な台へ刷新しました。

〔Cアーム型X線透視〕

従来のCアーム型透視では整形外科の手術、術中透視の必要な手術に対応が困難にて最新の透視台へ刷新しました。



〔無呼吸症候群〕

生活習慣病に伴い無呼吸症候群の患者様も多く見られるようになり、簡単に診断できる検査機器を常備しました。

学会活動

多くの専門学会へ参加し、最新の医療と技術を地域の患者様に御提供できるように努力して参りたいと思います。

〔第1回埼玉PNDセミナー講演〕

PND学会より選出され講演依頼を受け、PEG（内視鏡下胃瘻）増設の講演を行いました。

また、当施設が同エリアのPEG指導施設に選出されました。

〔第3回埼玉PNDセミナー講演〕

講演依頼を受け当院での在宅医療について講演しました。

〔大塚製薬学術講演〕

講演依頼を受け当院での経鼻内視鏡について講演しました。

〔埼玉草加内視鏡勉強会講演〕

講演依頼を受け当院での経鼻内視鏡について講演しました。

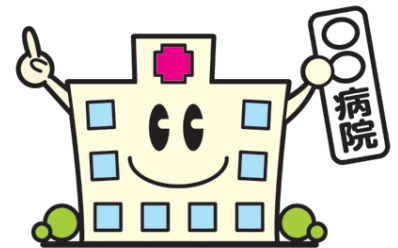
〔北葛飾郡医師会学術研究会〕

当院より3演題エントリーし症例報告を行いました。久喜市内の他施設からの報告がなく残念でした。

〔日本超音波学会〕臨床検査科：濱田昇一参加

〔埼玉超音波セミナー〕臨床検査科：戸塚寛子参加

〔埼玉経腸栄養セミナー〕栄養課 管理栄養士 穴口美和参加



各委員会だより

<医療安全委員会>

医療安全マニュアルを一部改訂し、より一層患者様が安心して診療・治療に専念できるようにしました。1年間の医療事故は0件、医療ミス0件、ヒアリ・ハット46件でした。ヒアリ・ハットの報告に基づき、8項目のシステムならびにマニュアルを改善、改定を行い、より安全性を高めました。

<感染症対策委員会>

院内の感染症発生新規はMRSA0件、緑膿菌0件、セラチア0件、病原性大腸菌0件、他施設からの持ち込み感染2件（内緑膿菌2件：1件県内大学病院、1件久喜市内病院）共に治療。院内感染0件、感染症マニュアルを一部改訂しより一層厳しく感染症防御に努めていきます。さらに輸血療法実施マニュアルを充実させ、輸血製剤、輸血の増加による事故、安全性を高めるようにしました。

<褥創対策委員会>

開院後7ヶ月間発生件数は0件でした。高齢・高度栄養障害の患者増加に伴い年間で6件、3度以上は1件のみで、残りの5件は1度が3件、2度が2件でした。全ベットに低吸収反発マットを導入。入院時褥創評価を行い、ハイリスク群には、エアーマットを導入や、除圧パットを使用。理学療法士による四肢のリハビリを入院時より開始。体向時計による、体位変換を実施、栄養面でも管理栄養士による評価導入を行い、早期にPEG導入を実践し、予防に努めています。

最先端医療

地域医療にいち早く高度な先端医療が行えたらと職員一同努力して参りました。その一部をご紹介します。

【ステント治療】

消化器癌の癌性狭窄にステントを挿入し、食事が取れるようにする治療です。特に食道がんに用いられ事が多く、1年間に7件施行（業者調べでは県内2位）しました。ステントとは金属で編みこんだ筒を、内視鏡を用いて挿入する手技です。特に印象に残った症例は、食道がん気管支瘻にて大学病院にて放置されていました。当院にてカバー付きステントにて閉鎖、退院されました。遠路は群馬から来られた食道噴門癌で経口摂取は無理といわれ当院にてステントを留置し、経口摂取再開し退院されたことです。

【ESD, EMR（内視鏡下早期胃癌粘膜切除術）】

当院で発見された症例4例、他施設で発見された2例合計6例を経験しました。最大径は4cmを1例経験しました。遠路は熊谷から来られ手術せずにESDにて加療できたことです。

【EST（内視鏡下食道静脈瘤結紮術）】

肝硬変に続発する食道静脈瘤に内視鏡にて静脈瘤を縛る方法です。1年間で16件経験しました。遠路では東京、埼玉本庄からこられた患者様に施行しました。

【PPH（内痔核手術）】

イタリアのポロンコ博士が考案された術式です。肛門内で痔核結紮する術式で、年間18例経験しました。先端医療施設として県に施設申請をしました。遠路は飯能から来られた患者さまが再三再発し、PPHにて再発しなくなったことです。

【腹腔鏡手術】

腹腔鏡による手術は、胆石が主流であり今や先端とはいえなくなりました。当院では腹腔鏡手術だけでなく、小切開法や臍弧状切開による胃切除を行っております。印象に残る症例は、24歳の女性の反復性イレウスにて狭山からこられ、腹腔鏡と臍にて手術され、傷が臍の中に隠れ治療されたことです。

【非開胸縦隔くり貫き法】

食道噴門癌で食道浸潤に対して従来開胸して手術していましたが、胸を開けないで下部食道を合併切除する術式です。

私たちは日々先端医療を導入し、よりよい低侵襲治療を目指し努力しています。今後とも宜しくお願い申し上げます。

第一回久喜メディカル医学

＜ARB（アンジオテンシンⅡ受容体阻害薬）の比較検討＞

当院では医療の質の向上と地域医療貢献を目標として医学術会を創設しました。第一回は高血圧症治療の一つであるARBについて勉強会を実施しました。当院でも数多くの高血圧症のお薬を患者さんに処方していますが、ご自身でも自分がどのような薬を飲んでいるのか知っておくことも大切だと思います。

お薬について何か不安な事・疑問に思うことがありましたら、お気軽に先生までお尋ねください。

高血圧症薬	特徴	製薬会社名
ミカルディス	半減期が長いので効果が長時間持続→早朝血圧が高い患者さんにお勧め。 メタボリックシンドロームを疑う患者にお勧め。	アステラス
オルメテック	立ち上がりがよく、早く効いてくるので、安心感がある。 受容体への結合力が強く、降圧作用も強力。	第一三共
プロプレス	心不全の効能を適用している。 肥満患者、糖尿病の合併及び耐糖能異常の患者、慢性腎臓病合併の患者にお勧め。	武田薬品
ディオバン	全世界で最も売上げのあるARBである。 他のARBに比べて一番安いので患者さん負担が軽い。	ノバルティス
ニューロタン	タンパク尿を伴う2型糖尿病性腎症の効能を適用している。 降圧作用はゆっくり効いてくる感じ。	萬有製薬